

ダンジオーラF上塗HB 高遮断性塗料用弱溶剤厚膜形フッ素樹脂上塗り塗料

□ 特 長

- ・塗料用シンナーで希釈でき、塗装作業性にすぐれます。
- ・外気温0℃以上で塗装が可能です。
- ・厚膜に塗装可能です。中塗りと上塗りの膜厚を1回で塗装可能な省工程塗料です。
- ・耐薬品性がすぐれています。

□ 塗 料 性 状

		塗料液		硬化剤		
色		各色		無色		
密度(g/cm ³)(23℃)		1.16 (糊状混合塗料) 1.19 (糊状塗料液) 0.98 (硬化剤)				
光 沢		つや有り				
引 火 点		41		45		
発 火 点		210 (参考値)		200 (参考値)		
消防法 表 示	化 学 名	合成樹脂エナメル塗料		合成樹脂クリヤー塗料		
	危険物区分	指定可燃物・液体		第4類 第2石油類(非水溶性)		
	危険物等級	- (火気厳禁)		III (火気厳禁)		
有 機 溶 剤 区 分		第3種		第3種		
毒 劇 物 表 示		-		-		
有 害 物 表 示		-		イソシアネート		
国 連 / 指 針 番 号		1263/128		1866/128		
環 境 性 能	クロル ^レ リス	配合せず	ホルムアルデヒド ^ト	配合せず	トリエン	配合せず
	キシレン	0.8%	パラジクロロベンゼン ^ン	配合せず	エチル ^ン ベンゼン	0.5%
	スチレン(モノマー)	配合せず	フタル酸ジ ^ン -n-ブチル	配合せず	トリステア ^カ	配合せず
	フタル酸ジ ^ン -2-エチルヘキシル	配合せず	ダイアゾノ ^ン	配合せず	アセトアルデヒド ^ト	配合せず
	フェノール ^{カルブ}	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C		30.9%				

- ・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。
- ・塗料液の危険物区分/等級についての補足事項：
白、淡彩...指定可燃物・液体/- (火気厳禁)
中彩、濃彩...第4類 第2石油類(非水溶性)/III (火気厳禁)
- ・加熱残分(%) 6 1 (ホワイト混合塗料) 6 2 (ホワイト塗料液) 5 6 (硬化剤)

□ 塗 装 基 準

下 地 調 整 :

混 合 :

荷 姿 :

ポットライフ :

希 釈 剤 :

塗 装 方 法 :

- ・被塗面に付着したダスト・海塩粒子・水分・油そのほかの異質物を清掃し、清浄ケレンしてください。
- ・2液形のため、「塗料液：硬化剤＝7：1(重量比)」に混合し、十分にかくはんしてください。
- ・16kgセット(塗料液：硬化剤＝14kg：2kg)
- ・5時間(23℃)、8時間(0℃)、2時間(35℃)
- ・塗料用シンナー-A

塗 装 方 法	はけ、ローラー塗り	エアレススプレー塗り
希 釈 率	0～10%	0～10%
使 用 量	0.18kg/m ² /回	0.23kg/m ² /回
膜厚(ドライ)	55μm	55μm
膜厚(ウェット)	130μm	130μm

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
- ・一次圧0.4～0.5MPa 二次圧12～15MPa チップNo.163-615、617など

エアレス条件 :

乾 燥 時 間 :

	5	23	30
指 触 乾 燥	3時間	50分	30分
半 硬 化 乾 燥	6時間	3時間	2時間
塗 り 重 ね 乾 燥	24時間以上10日以内	16時間以上10日以内	16時間以上10日以内

- ・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。
- ・ダンジオーラF上塗HBは(0℃)指触乾燥：3時間、半硬化：6時間、塗り重ね：2 4時間以上1 0日以内になります。

□ 注 意 事 項

- ・硬化剤は、水と反応しますので容器の密閉を確実にしてください。また、塗料中への水の混入は絶対に避けてください。
- ・一般塗料と比較して塗料表面に特定の色が浮きやすい傾向にあります。仕上がり外観や性能に異常はありませんので、その際には攪拌してご使用ください。
- ・塗り重ね日数がオーバーした場合、ペーパー掛け、シンナー拭きなどで目粗ししてから塗り重ねてください。
- ・補修塗装で下塗りを塗り重ねる部分は入念な目粗しを行ってください。
- ・ご使用前に充分かくはんしてください。
- ・2液弱溶剤反応樹脂を使用しているため、希釈時、シンナーが浮いた状態になりますが、かくはんすると問題なく混ざります。
- ・塗料用シンナーA以外(例えばウレタン用シンナー等)での希釈は絶対に避けてください。
- ・過剰希釈をすると本来のつやが発現しない場合がありますので、標準希釈量をまもってください。
- ・洗い溶剤はラッカーシンナーをご使用ください。
- ・水・アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
- ・希釈しすぎるとダレやすくなりますので、気温に応じて希釈率を変えてください。
- ・塗装時0 以下、塗装後0 以下の気温が連続することが予想される場合、または塗装時の湿度85%以上の場合は施工しないでください。
- ・エアスプレーの場合は、はけ・ローラー・エアレス塗装に比べ、光沢が低下する傾向にあります。
- ・エアレス塗装は飛散防止措置を講じてください。
- ・標準膜厚より極端に厚い場合や、薄い場合には種々の塗膜欠陥を生じる事がありますので規定の使用量を厳守してください(さび・はく離等)。
- ・上塗りの色相が、白および極淡彩(明度85以上)の場合は、前工程の下塗りは、ホワイト色をご使用ください。また、黄、オレンジ、赤系の中で、彩度が高い濃彩色を使用する場合は、標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合があるため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。必要に応じて使用量及び塗り回数を増やしてください。
- ・溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気を行ってください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- ・濃彩色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがありますのでご注意ください。
- ・調色は近似色しか出ないことがあります。特に濃彩色は調色不可能の場合がありますのであらかじめ担当にご相談ください。
- ・色相によっては隠蔽が劣るものがございますので、ご相談ください。
- ・作業前に容器に記載している「安全衛生上の注意事項」をご参照ください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。製品安全に関する詳細な内容は安全データシート(SDS)をご参照ください。